日本のモノづくりを支える

九州の元気企業45社

日刊工業新聞特別取材班〔編〕

日刊工業新聞社

日本のモノづくりを支える 九州の元気企業45社

日刊工業新聞特別取材班〔編〕

日刊工業

9784526077074

1923034020006

ISBN978-4-526-07707-4
C3034 ¥2000E

定価（本体2000円＋税）

日本のモノづくりを支える
九州の元気企業45社

やさしさをカタチに

徳器技研工業㈱

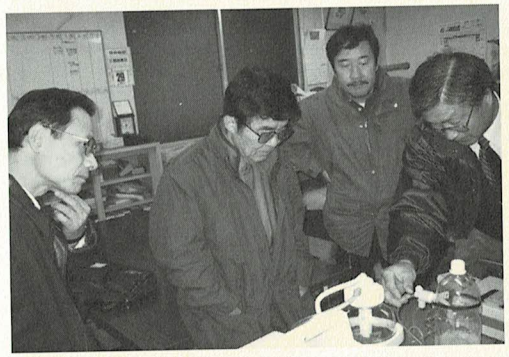
徳器技研工業は医療・福祉介護機器のメーカー。徳永社長は「医療健康に技術で貢献する会社を目指す」と意気込む。自動で、たん吸引できる気管内たん吸引器を開発、販売する。難病者の身体的負担を和らげ、家族にかかる介護負担を軽減するモノづくりには「やさしさをカタチに」という、徳永社長の情熱が注がれている。

■気管内たん吸引器開発

気管内たん吸引器は患者や医療関係者との信頼関係の中から生まれた。筋萎縮性側索硬化症（ＡＬＳ）患者の在宅医療で訪問診療を行う医師から「人工呼吸器をつけた患者と介護する家族が患者のたん吸引で苦しんでいる。介護負担を軽減するのに自動化できる吸引器はできないか」との相談を受けた。

ＡＬＳは体を動かす神経系（運動ニューロン）が変化する病気。進行するに従い運動障害や呼吸障害などが生じ、患者は人工呼吸器を必要とする。1～2時間おきに気道に溜まるたんを手作業で吸引しなければならず患者と介護者の負担は大きい。

そこで患者の呼吸に影響しない小流量で連続吸引するたん吸引器を開発した。最大吸引圧力は80キロパスカル、1分当たりの最大吸引流量は16リットル。吸引チューブの吸引孔をカニューレの内側に一体化させたことで、患者の気管粘膜に吸着しない安全性を確保した。

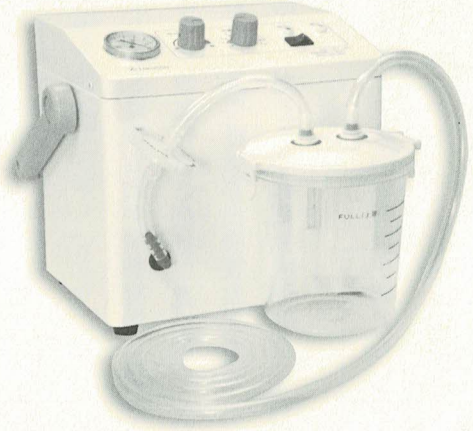


気管内たん吸引器開発に向け医師らと何度も会合を重ねた

社是・理念

難病者のための支援機器開発を目指して創業した。以来、「技術を基本」に介護・福祉・医療機器の研究開発に取り組む。今後も利用者の声を聞いてニーズを発掘。利用者の身になって良い商品を開発する。また利用者のことを思い、心のこもった商品を生産。利用者の身近な支援者として商品を提供し、利用者の心強い仲間としてサービスする。

代表取締役
徳永 修一 氏



気管内たん吸引器

病院などで導入が進む同社のたん吸引器。導入した病院によると、市販機器の1日の吸引回数を平均17・5回から2・9回まで減らせるため「患者がぐっすり眠れる」「介護の負担が軽くなった」と利用者の喜ぶ声が寄せられている。

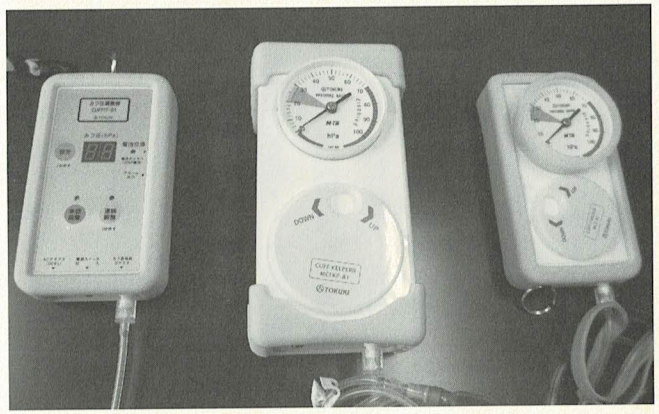
全国にはALS患者が約5000人。たん吸引を必要とする高齢者や障がい者を含めた機器利用者は約5万人に昇るという。高齢化が進むにつれ機器需要は高まると予測されるだけに「普及に力を入れ、ブランド力を高めたい」（徳永社長）と先を見据える。

大分、宮崎両県では「東九州メディカルバレー構想」を策定。産学官で医療機器産業の集積を推進している。この追い風を受け、患者に寄り添う機器開発に力を入れる。

記者の目

利用者の笑顔を創る機器開発

ALS患者との出会いから患者や介護する家族に寄り添う機器開発を目指す徳永社長。2017年で創業20周年目を迎える。気管内たん吸引器や電源不要の足踏み式吸引器、カフ圧調整器などを産学連携して精力的に開発する。今後は海外にも視野を広げる考えだ。生涯現役で利用者の喜ぶ笑顔を創る徳永社長の機器開発に目が離せない。



会社概要

本社住所：大分県宇佐市大根川318番地
電話番号：0978-33-5595
設立年月日：1997年5月
業　　種：医療・介護・福祉機器製造販売
売 上 高：約2億円（2016年6月期）
事 業 所：東京オフィス（東京都葛飾区）

URL：http://www.tokso.net/